

新本庁舎建設工事をめぐる入札妨害事件の概要等について（更新）

【入札妨害事件関係】

2026/6/30

No.	日付	事件概要	市議会関係	本事案に係る新聞報道（抜粋）
32	R8.4.20	初公判 相沢被告 →R2、R4の事件ともに起訴内容を否認し、無罪を主張。 →検察側、弁護側の冒頭陳述及び証拠書類の取調べが行われ、閉廷。		<u>4月21日：相沢被告の初公判を受けて報道</u> ・相沢被告は「（秘密事項の）学識経験者の名前は伝えていません。賄賂も受け取っていません」と起訴事実を否認し、弁護側も無罪を主張した。 ・弁護側は「（相沢被告は）設計会社とグンエイ、前副市長の3者の共謀に基づく不正行為に利用される形で関与しているにすぎない」と主張。賄賂も「要求したことはなく、設計会社から知らぬ間に一方的に送り付けられた」と訴えた。グンエイ本社で関東建設工業を代表とするJVが工事を落札できるよう依頼したとされることについては「グンエイ元役員の指示通りに発言した」とし、「犯罪の成立に必要な実行行為や共謀、故意などを欠いている」と無罪を主張した。 ・検察側は冒頭陳述後の証拠調べで、商品券は相沢被告の妻が使用したと明らかにした。 ・桐生市の荒木恵司市長は20日の定例記者会見で、「今後の裁判の推移を注視したい」と述べるにとどめた。 ・次回公判は5月11日を予定。
33	R8.4.21		全員協議会：（森山前副市長の退職手当の支払い差し止めの取り消しについて）	<u>4月22日・23日：全員協議会を受けて報道</u> ・森山前副市長に支払い済みの1期目退職金1,299万9,700円について、桐生市議会は全員協議会を市役所委員会室で開き、「市は前副市長に退職金の全額返納を求めるべき」との趣旨の提言を、市議会として市に行うことを決めた。 ・昨年12月に加重収賄などの有罪が確定した同判決では、前副市長が1期目の任期中に不正行為を行ったことを認定している。 ・市は市条例に基づき、退職職員が在職期間中の行為で拘禁刑以上の刑に処された場合の「返納を命ずる処分」の適用を検討。処分に必要な退職手当審査会の委員を選定中で、早ければ5月中にも立ち上げたい考えだ。 ・2期目の退職金583万6,600円は今月下旬に支給される予定だが、退職時の前副市長からの自主返納の申し出を踏まえ、市は「前副市長に全額自主返納を求める予定」としている。
34	R8.4.30		全員協議会：（森山前副市長の1期目退職手当の取扱いについて）	<u>5月1日：全員協議会を受けて報道</u> 「森山前副市長に支払い済みの1期目の退職金について、全議員の総意として（前副市長に）全額返納を命ずる処分を行うべき」とする意志表明文をまとめ、荒木市長に提出した。

No.	日付	事件概要	市議会関係	本事案に係る新聞報道（抜粋）
35	R8.5.11	第2回公判 相沢被告 →森山前副市長及び相沢県議の妻に対する証人尋問が行われ、閉廷。		5月12日：相沢被告の第2回公判を受けて報道 ・森山氏は証人尋問で、公募型プロポーザル後の2020年8月下旬、副市長室で相沢被告と面談した際、被告に「設計会社から内々に（森山氏に）質問がある」と、審査員の氏名などを尋ねられたと証言。「非公表であり、委員に迷惑がかかるので話せない」などと拒否すると「市民代表もいるでしょう？」などとクイズ形式で迫られ、審査委員の人数構成などを答えたことを明らかにした。その後も電話で「グンエイさんも教えてほしいと言っている」などと審査委員の実名を教えるよう相沢被告から迫られ、「被告をむげにできず、学識経験者2人の名前を教えてしまった」と話した。 ・一方、「グンエイと森山氏は設計会社との間にそれぞれ共謀があった」と主張する弁護側は、設計会社への受託が決まった後、森山氏がグンエイ社長の関係者から、設計会社に便宜を図った謝礼として、別の商品券10万円分を受け取ったことを指摘。森山氏は「2度断った」としながら、商品券を受け取っていたことを認める一幕もあった。 ・相沢被告の妻は検察の問い掛けに「届いた日にちや送り主などの細かいことは覚えていない」と前置きし、自宅に届いたお歳暮の中に、商品券の名前らしきロゴが入った箱があったことを証言。被告に「こんなものが届いたから確認して」と口頭で伝えると、被告から「確認するからちょっと待ってて」と言われ、その後「（使って）大丈夫だよと言われた」と明らかにした。 ・次回公判は5月20日を予定。
36	R8.5.14	相沢被告が保釈		5月18日：相沢被告の保釈を受けて報道 ・（5月）14日に保釈され、議員活動を再開させた上で、改めて無罪を主張。21日開会の県議会にも出席するとした。 ・勾留は330日に及んだ。
37	R8.5.20	第3回公判 相沢被告 →市職員に対する証人尋問が行われ、閉廷。		5月21日：相沢被告の第3回公判を受けて報道 ・市職員は検察側の尋問に答える形で、審査委員の氏名を秘密事項とした理由について、「審査の公平性を保つため」と証言。具体的には「審査に参加する設計業者が、審査委員に営業活動を行うことを防ぐため」や「審査委員に対し、落選した設計業者などから不当な圧力がかかるのを防ぐため」などと話した。 ・入札公告案が修正されたことに関連し、業者を評価する項目の一つだった「過去の免震実績」の期間について、市側は当初「15年」とする方向で進めていたが、設計会社から複数回にわたり「10年にしたほうがいいのでは」という意見があったことや、市担当課が森山氏に公告案を説明した後に「10年」と修正されたことなどを証言した。 ・次回公判は6月2日を予定。
38	R8.5.21	相沢被告が県議会本会議に出席		5月21日：相沢被告の県議会出席を受けて報道 ・21日午前、県議会の本会議に出席した。 ・保釈後の18日付で1人会派「真心」の結成を届け出た。

No.	日付	事件概要	市議会関係	本事案に係る新聞報道（抜粋）
39	R8.5.22	相沢被告が保釈受け記者会見		5月23日：相沢被告の記者会見を受けて報道 ・被告は、「保釈された瞬間から県民の負託に応えられるように活動していかなければと思った」と述べ、県議としての活動再開を強調。
40	R8.6.1	第6回公判 新井被告 → 森山前副市長に対する証人尋問が行われ、閉廷。		6月2日：新井被告の第6回公判を受けて報道 ・設計会社選定前の食事会の席で、グンエイの社長や新井被告から「設計会社に（基本設計業務などを）取らせてほしい」などと言われたことを証言し、「グンエイが設計会社に「貸し」をつくり、後の建設工事などで見返りを得たいのだと思った」と述べた。 ・弁護側は新庁舎建設に関して「森山氏が設計を設計会社に受注させ、建設工事を関東建設工業JVに入札させるという構想を描いていた」と訴え、入札自体の違法性を主張。 ・森山氏は「公告案などの情報が設計会社や関東建設工業に流れるという懸念はなかったか」という弁護側からの問いに「情報が流れるかもしれないという思いはあった」と答えた。 ・次回公判は6月24日を予定。
41	R8.6.2	第4回公判 相沢被告 → 設計会社社員に対する証人尋問が行われ、閉廷。		6月3日：相沢被告の第4回公判を受けて報道 ・社員は相沢被告らに送った商品券などについて「（便宜の御礼との趣旨が）伝わっていると認識している」と述べた。 ・商品券送付後、被告から「ありがとう」と電話を受けたとした。 ・グンエイ本社での会議の音声が再生され、被告とされる男性が社員に対し、「こちら側の意図することを100％受けてサジェスチョンし、それを通してもらわないといけない」と発言していた。 ・被告は「関東建設工業が100％取れるんだと示していただきたい」などと入札について強い口調で迫り、入札公告案の情報を関東建設工業とグンエイに共有して両社の意向を反映するよう求めたことを示した。 ・次回公判は6月15日を予定。
42	R8.6.8		総務委員会：（森山前副市長の退職手当について）	- 6月9日：総務委員会を受けて報道 ・いまだ自主返納なし。 ・前副市長の2期目退職金、桐生市が早期返納求める。

No.	日付	事件概要	市議会関係	本事案に係る新聞報道（抜粋）
43	R8.6.15	第5回公判 相沢被告 → 相沢被告が出廷できず、証人尋問が延期。		6月16日：相沢被告の第5回公判を受けて報道 ・相沢被告がさいたま地裁に向かう途中の交通事故で負傷し出廷できないとして、予定されていた証人尋問が延期となった。 ・弁護人らによると、同日朝、桐生市内で親族が運転する車と対向車が衝突。相沢被告は胸を打ち、けがを負ったという。
44	R8.6.24	第7回公判 新井被告 → 設計会社社員に対する証人尋問が行われ、閉廷。		6月25日：新井被告の第7回公判を受けて報道 ・設計会社社員は、新井被告らが出席する会議の中で、公告案をJV側に共有することが決まったと証言した。 ・会議は2022年5月に開かれ、新井被告のほか、相沢県議や関東建設工業、設計会社社員ら計8人が出席したと説明。 ・同社員は会議の他の参加者から、工事の公告案の内容を事前にJV側に共有し、意向を反映させてほしいと頼まれたと証言した。 ・新井被告からは「関東建設工業を含めて自分たちが（新庁舎建設工事を）取れるように頑張ってもらいたい」といった趣旨の働きかけがあったと述べた。
45	R8.6.29	第6回公判 相沢被告 → 関東建設工業元営業部長、グンエイ元副社長、新井被告に対する証人尋問が行われ、閉廷。		6月30日：相沢被告の第6回公判を受けて報道 ・新井被告が証人として出廷し、都内の設計会社社員を交えた会議で「相沢県議がいることで社員への圧力になったと思った」と述べた。 ・新井被告は「われわれの業界では設計会社が一番偉い。（相沢被告とは）うちの会社が仕事を取れるようにするという共通認識はあった」と説明した。 ・事件と同時期にグンエイは、相沢被告が代表の政党支部に多額の献金をしていた。新井被告は「献金は当然。コロナ禍もあり、誰よりも地元のために動いていた」と述べた。 ・関東建設工業元営業部長は、「（入札公告案の）中身について、（相沢）被告とは一切話していない」と証言。弁護人から「（被告は）入札公告案の作成に影響を与えていないと認識しているか」と問われ、「はい」と答えた。